

研修のまとめ

1. 研究仮説について

仮説1 ICT機器を活用した教材・教具の工夫や課題提示の工夫などによって、児童の興味・関心の高まりや知識の深まりにつながり、学習内容の習熟や定着が図られるであろう。

《成果》

- ・ 学習の見通しをもたせたり、学習意欲の高揚を図ったりするための取組が見られ、児童の様子から一定の成果を感じることができた。
- ・ スパイラルや習熟度別など、学習内容の習得にかかわり多様な活用が見られた。意欲的に何度も取り組む児童の姿からその有効性を感じた。
- ・ フラッシュカード、動画記録・再生、アプリ資料の閲覧、スキルアップのアプリ、ホワイトボードの用途など、iPadの効果的な活用ぶりがよくわかり、児童を授業に引きつける要素になっている。
- ・ 児童の興味関心を高めるのに、大きな画面で、課題やイメージなどを提示するのは、とても効果的であった。
- ・ iPadや電子黒板・スマートボードを活用することで、意欲が高まり、習熟・定着につながっていたと思います。
- ・ 九九や都道府県を覚えるなど、楽しみながら内容の定着ができて良い。
- ・ 子どもの関心が高まることはもちろん、練習を繰り返すことで定着の高まりがわかりました。

《課題》

- ・ 成果については主観中心となりがちなので、客観性を追求するための評価について研究する必要がある。
- ・ 「知識の深まり」を具体的にどう捉えるかによるが、それを追求するための活用法についてはあまり見ることができなかった。
- ・ iPadの機能を生かした具体的な活用例を教科ごとに、もしくは用途ごとにリストとしてまとめておくとうりである。
- ・ 児童の考えを並べて比較することができれば、知識の深まりにもつながるが、現段階では難しい。
- ・ ICT機器をグループ活動でどのように活用していくかを、もう少し方法があればと思いました。

《成 果》

- ・ 学習の見通し立て
- ・ 学習意欲の高揚，興味関心の高まり
- ・ ICT機器の多様な活用方法

《課 題》

- ・ 客観性を持たせるための評価の研究
- ・ 「知識の深まり」に対するICT機器の活用法
- ・ グループでの活用法

仮説2 ICT機器を活用することにより、課題解決に向けての取組や交流が意欲的に行われるようになり、より多様な考えを広げることができるであろう。

《成果》

- ・ 自力解決場面から交流場面へ移行するときの時間のロスを少なくし、思考や定着の時間の確保につながっていた。
- ・ 電子黒板を活用し学習リーダーに進行を務めさせることで、間接指導における伝え合う活動の充実を図る

ことができていたのではないか。

- ・ 交流に取りかかるまでの時間が省略化されてよかった。(交流時間の確保)
- ・ 自分の考えを、ICT 機器を通じて発表・交流することは、より意欲的に作業に取り組んだり、発表しようとする意識を高めることができた。
- ・ ICT 機器を活用することで発表することや聞くことがスムーズになった。
- ・ 電子黒板(?)を使った交流や振り返りで iPad の映像を見ることで、友達の考えや自分の様子がよりわかりやすく次の活動に進めた。
- ・ 自分の考えを発表し交流する場面での効果が高いことがわかりました。

《課題》

- ・ 自力解決場面を撮影し、発表や交流に使うと良いのでは。
- ・ 児童のノートを電子黒板に映すときの工夫が、話し合いへの活用につながる。
- ・ 躓き場面と解決場面を記録、提示し、比較により思考を深めさせると良いのでは。
- ・ 時間的ロスが少なくなる分、交流の観点をより明確にし、児童の学習活動を充実させる必要がある。
- ・ 交流場面での深まりの弱さをいつも感じる。話し合いの柱(論点)を明確にしていく工夫が必要。
- ・ 交流が、発表で終わってしまいがちである。仮説1でも書いたが、比較すること、他の考えの良さを認め合うことなどでも ICT を通してできるかどうか模索する必要がある。
- ・ 少ない人数だとノート見せるだけでもよい時もあるかと思います。
- ・ 板書として残すことが難しい。

《成 果》

- ・ 思考や定着の時間の確保
- ・ 間接指導における伝え合う活動の充実
 - ・ より意欲的にという意識の高まり
- ・ 発表する力(プレゼン力)や聞く力の高まり
 - ・ 意見の交流や振り返りの効果

《課 題》

- ・ 単純なる記録媒体活用との区別
- ・ 記録を振り返る場合、時間の確保
- ・ 交流場面における深まりと ICT 機器の活用法
 - ・ 永続的な記録の方法

仮説3 ICT 機器を活用することにより、家庭での情報機器端末に対する抵抗感を取り除くとともに、情報に対する危機意識を定着させる機会が増え、情報モラルを確立することができるであろう。

《成果》

- ・ 日常的に授業の中でしっかりと iPad を使いこなしている児童が多く見られた。(抵抗感が見られない)
- ・ デジタルカメラで撮影する際の被写体の扱い(プライバシー保護)の指導は自然で良かった。
- ・ 学校で ICT 機器に触れる機会を多くすることで、共通の話題ができ、そこから使用法など話が広がっていた。
- ・ 気軽に使用できる環境なので、抵抗感を取り除くことはできたと思います。
- ・ 子どもたちはデジカメや iPad などを使うのを楽しみにしていて、分からないことがあると、自分で iPad で調べたりするようになった。

《課題》

- ・ 仮説3に特化した特設授業でなければしっかりと情報モラルの理解と確立には結びつかないかもしれない。道徳教育の充実と絡めながら進めていくことが大切である。
- ・ 日常的なとりくみだけでなく、時間を設けて、情報モラルについて指導したり、高学年は社会科など、他教科との関連も意識しながら取り組んでいく必要を感じた。
- ・ 危機意識を定着させるには、今後も継続して指導していかないと難しい。
- ・ 家庭でも、ゲーム機などで写真を撮ったりすることができるが、実際モラルが守られているか、把握しづらい。家庭での協力も必要です。
- ・ 家庭との連携等がもう少しできるとよかったかなと、自分なりに反省しています。

《成 果》

- ・ 機器に抵抗感の排除
- ・ プライバシーに対する指導
- ・ 意欲の向上

《課 題》

- ・ 日常授業の中でのモラルの指導方法
- ・ 特設授業や他教科でのとりくみ方法
 - ・ 継続的な指導
 - ・ 家庭との連携

2. 研修全体（テーマ、めざす力）についての成果と課題

《成果》

- ・ 1単位時間毎の評価規準をより明確にし、子どもに付ける力の到達度をしっかり評価することの必要性が理解できたのではないかと。「授業の終末段階を大切にすること」「児童の実態に合わせた個別の指導を大切にすること」「今年が目玉であるICT機器を効果的に活用し課題把握や定着に生かすこと」等があげられ、児童自らが既習事項を活用し、新しい計算方法を考えていく授業を目指す方向性を確認することができた。
- ・ 教科を限定することなく、どの教科のどの場面でICT機器の方が効果的であるかという発想の授業づくりがよかった。
- ・ 交流授業や授業研を通じて、ICT機器の効果的な使い方を知ることができて良かった。
- ・ 子どもが進んで発表する場面が多くなり、効果があったと思います。

《課題》

- ・ 基本的な授業過程をしっかりと確認しておく必要がある。
- ・ 仮説設定においては更により具体的な研究の視点を定め、授業中における子どもの変容を通じてその具体的な検証できるようにしていきたい。
- ・ 「自分の考えを広げようとする子ども」というのがむずかしかった。

《成 果》

- ・ 子どもに付ける力の到達度を評価することの必要性
- ・ どの教科のどの場面で ICT 機器の方が効果的であるかという発想の授業づくり
 - ・ ICT 機器の効果的な使い方
 - ・ 子どもの意欲の向上

《課 題》

- ・ 基本的な授業過程の確認
- ・ 仮説設定の視点(検証方法を含む)

3. 来年度の研修に向けて

- ・ 今年度の成果や町の動向を考えると、来年度も引き続き本研究を継続したいと思う。来年度はより活用法を研究し、学力を高める授業づくりを目指していけたらと考える。
- ・ ICT 機器を活用した授業改善に関する校内研究の継続。
- ・ 学年や教科によって効果的な活用法はそれぞれだと思うが、次年度は、教科を絞って、その教科のより効果的な活用法を行っても良いのではないかと思った。
- ・ 子どもから多様な意見が出され活発に進んでいけるようにしていきたい。

来年度は…

- ① ICT 機器についての研修については、一定程度達成できたと押さえる。
- ② ICT 機器は教具の一つとして、授業の方法の一つの選択肢とする。
- ③ 教科をしぼって、学力を高める授業づくりを目指した研修をしていく。

という方向性で行きたいと思います。

4. その他

- ・ わかりやすく研修を進めていただいた担当の先生に感謝いたします。ありがとうございました。
- ・ 教師自身が、どの教科のどの場面で、効果的に ICT 機器を活用できるか考え、取り組めた1年だったと思う。教師のスキルアップはもちろんのこと、児童の意欲も大きく駆り立てることができた研修だと思う。
- ・ ICT 機器については一段落して、教科にしてよいのかなあとと思います。
- ・ ICT 機器を使うのが苦手なものにとっては、準備が大変だったりトラブルがあったときに困ってしまう面もあった。
- ・ 先生方の教材研究をはじめ、授業で指導されることのさまざまな準備にはご苦労がおりだと思います。本当にお疲れさまです。ICT 機器は高額なものが多いため、すぐ購入することは難しいですが、先生方の声を聞かせてもらって、来年度以降の教材購入につなげていきたいです。